上顎前突に伴う審美障害に対する矯正治療での便宜抜歯の部位を考慮した１症例

名古屋支部　　寺本　清峰

症例概要

初診時57歳女性、他院での治療後も続く上顎左側第二小臼歯の疼痛を主訴に来院。感染根管治療により主訴は改善された。
長年、前歯の突出感を気にしてきたとの訴えと共に矯正治療を含めた処置を希望された。

初診時口腔内写真

患者データ

初診日　2017 / 6 / 18
Age　57 歳　女性

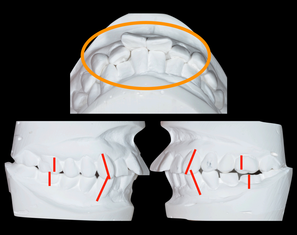
主訴
左上の歯が痛い
既往歴
特になし

顔貌

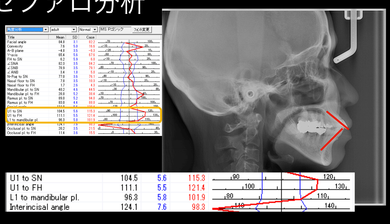
治療方針

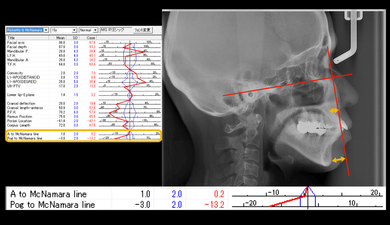
抜歯部位は失活歯であり今後の欠損リスクの高い上顎左側第二小臼歯を選択。そのスペースを使い、上顎前突を改善しプロビジョナルレストレーションにて確認後、補綴治療にてアンテリアガイダンスとバーティカルストップを確立させる。

模型分析



セファロ分析





問題点

上顎中切歯の失活歯による変色
上顎前歯の唇側傾斜及び上下前歯の叢生
不十分なアンテリアガイダンスに伴う臼歯部の咬頭干渉

診断

不適切なアンテリアガイダンスを伴う審美障害

左右犬歯及び第一大臼歯ともにⅡ級傾向があり、上下前歯共に前突している。
下顎位は後退位であるため、上顎は抜歯、下顎はディスキングを行い非抜歯にて矯正治療を行う。

治療経過・治療成績

失活歯である上顎左側第二小臼歯抜歯スペースを利用しアンカーロスを考慮した上で、計画通り治療終了。
アンテリアガイダンスを確立し、臼歯離開咬合を与えることができた。

矯正治療前

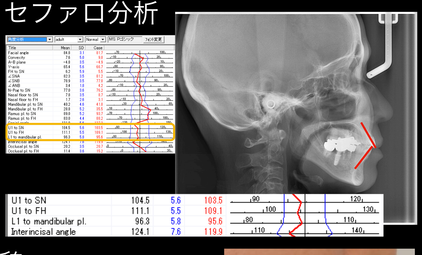
レベリング時

リトラクト時

リトラクト完了時

矯正治療終了時

セファロ分析



ファイナルレストレーショ

顔貌

矯正治療終了後、プロビジョナルレストレーションにて確認を行い、補綴修復治療にてアンテリアガイダンス及びバーティカルストップを確立し、主訴である審美と機能を改善した。

術前

矯正治療終了時

術後

考察

矯正治療を行う上での矯正治療の難易度と、治療後の歯列咬合の安定のため、生活歯を温存するメリットは高いと思われるが、その分治療の難易度も高くなる。
今回、失活歯であり今後の欠損リスクの高い上顎左側第二小臼歯部位の抜歯し生活歯の保存を試みた上、患者の希望に沿った上顎前突を改善し、最小限の補綴修復での治療を可能にした。

結論

矯正治療は患者のもつ口腔内の環境改善には有効な治療法である。
しかし治療を行う上で、患者の希望する状態と実現可能か否かを適切に判断し、将来的なリスクを含め長期安定につながると思われる。

日本臨床歯科学会　利益相反開示
筆頭発表者名：寺本清峰
本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません